

ゴアレーベンの大勝利に続こう 11・1 全国労働者集会への大結集を

北ドイツ ゴアレーベン 核廃棄物処理場選定を阻む

9月28日、核廃棄物中間貯蔵庫が置かれ最終処理場として目ざされた北ドイツのゴアレーベンが、「地質学的な適格条項を満たしていない」という理由から候補地から除外され、かわりにドイツ全土のなかから90か所(全国土の54%に当たる)が選考の対象として指定された。

ゴアレーベン現地で、闘ってきた反対同盟(リュヒョー・タンネンベルク環境保護市民運動)の前委員長ルーデック・ケルステンさんは、動労千葉への連絡の中で次のように語っている。

「これは偉大な勝利です。私たちがドイツ全国、そして世界各地からの支持を受けてやり抜いてきた43年間の運動の成果です。これでゴアレーベンは核廃棄物の汚染から解放されました。しかし、闘いは終わってわけではありません。原発反対の闘いは続きます」



反対同盟の機関紙は、「ゴアレーベンは生き抜くぞ!」というタイトルを掲げ、「これまでわれわれ住民の意思を無視して行われてきた核廃棄物処理問題に

ついでに決定が、はじめて政治的思惑ではなく地質学的な根拠を示して行われたことは、冷静に受け止めた。しかし、ゴアレーベンは外されたが、他の90地域にわたる候補地の住民にとっては、われわれがこれまで43年間にわたって直面してきた現実に、あらためて向き合うこととなる。これからの廃棄物処理場選定がどのように行われるかが問題だ。10月4日、反対同盟は、ゴアレーベン現地で中間貯蔵庫を包囲して「勝利の行進」を行う。全国の皆さんの結集を呼びかける」とし、新たな闘いの決意と方向を明らかにしている。

70年代から続く闘い

ドイツ政府は1979年、「核燃料リサイクルセンター」の中軸として「ゴアレーベン岩塩坑が、高レベル放射性廃棄物処理場に適格である」という決定を下した。しかし、それに先立つ1977年に、「原発、お断り! (Atomkraft, Nein Danke!)」というスローガンを掲げた反対運動が開始され、農民をはじめとする住民総決起として、粘り強い闘いが続いている。

福島と連帯した闘い

2014年3月11日、福島原発事故3周年を期して、「福島を忘れるな! 全原発・即時廃止!」を掲げた集会在ドイツ2339か所で開かれた。またゴアレーベン現地では、2011年以来、「福島を警告を忘れるな! 月曜行動」が毎週継続され、現在500回目を迎えるに至っている。

このゴアレーベンで切り開かれた大勝利は、福島・広島・長崎そして沖縄、三里塚の闘いへの大きな支援・連帯の号砲だ。さらなる国際連帯の深化・拡大をもって、帝国主義の核と原発に引導を渡す闘いに立ち上がろう。11・1全国労働者総決起集会への大結集を実現しよう!